

第1回 HSH運営指導委員会並びに学校評議員会の概要

1 日 時

令和2年7月22日（水） 14:00～15:30

2 場 所

県立伊丹高等学校 緑創館会議室

3 出席者

別紙参照

4 学校からの説明

(1) 県高SAKURAプロジェクトについて

校長から説明資料1・参考資料1に基づいて説明

(2) COVID-19感染拡大防止について

校長から説明資料2・参考資料2に基づいて説明

5 委員からの主な意見等

(1) 学校運営全般について

- ・県立伊丹高校は地域の誇りである。地域とともに育ってきた学校と認識している。
- ・生徒が真面目でコツコツ努力される校風について、生徒や教員が変わっても代々引き継いでいっていただきたい。
- ・説明はなかったが国公立大学進学者が約30名増えており、これまでの取組の成果が進学実績に反映されている。
- ・登下校時の自転車での交通マナーは最も気を付けてほしい。朝夕の登下校時、自転車で広がったり、スピードを上げたりしているので危ない。
- ・今後の社会では、能動的に自分から探して求めていく人材が求められる。海外の人と対等にやっていけるような、好奇心旺盛な人材を学校の勉学以外の国際交流や探究学習で経験や体験させていくことが大切だ。
- ・今年は無理かもしれないが、小・中・高の連携も必要なのではないか。中学とも連携して研修会等を共催し、情報交換ができればよいと思う。

(2) 県高SAKURAプロジェクトについて

- ・新たにHSHを獲得して外部の資金を得て、引き続き着実に進めている。
- ・SGHをホップ、HSHをステップ、120周年をジャンプとするストーリーがしっかりしている。
- ・「4つの力」のうち、「読解力」については、一般に用いられる国語の読解力との違いの説明が必要。
- ・「5つの活動」については、各活動の関係性がわかるように構築したい。たとえば、具体的なそれぞれの活動を生徒が①必須で行うもの、②準必須で行うもの、③自主的に行うものに分け、生徒に記録させることが考えられる。
- ・台湾の高校とはこれまで良い活動ができている。コロナ禍の中、訪問できないのであれば、2校間のオンラインカンファレンスなど関係性を継続する取組を期待する。
- ・本年度は国際的に活動するのは難しい。身近な地域の自治会等に生徒が参加することで、地域での新しい取組が進んで行けばよいと思う。

(3) COVID-19感染拡大防止について

- ・「子供ファースト」で取り組み、教育SNSのエドモドや、非常に充実したHPなど広報を重視したことが評価できる。
- ・あらゆる事業を見直すチャンスに恵まれたと考え、廃止すべきものは廃止し、時代に応じた新しい観点から新しい取組を始めたらい。
- ・来年入学する中学3年生の気持ちを考えて受け入れてほしい。伊丹市の中学校では、授業は45分×7校時で実施し、修学旅行、体育大会、合唱コンクール等の中止が決定している。オープンスクールや学校説明会がないことも不安材料である。
- ・生徒の心のケアについての説明がなかったが、臨時休業後、中学校では面談を頻繁に行い、心のケアを重視して取り組んだ。特に夏休みは子供たちの心の状態が心配である。